

経営比較分析表（令和4年度決算）

神奈川県茅ヶ崎市 市立病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
当然財務	病院事業	一般病院	400床以上～500床未満	非設置
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	28	対象	ド透 I 未 訓 方	救 臨 災 地
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	不採算地区中核病院	看護配置
246,394	28,878	非該当	非該当	7 : 1

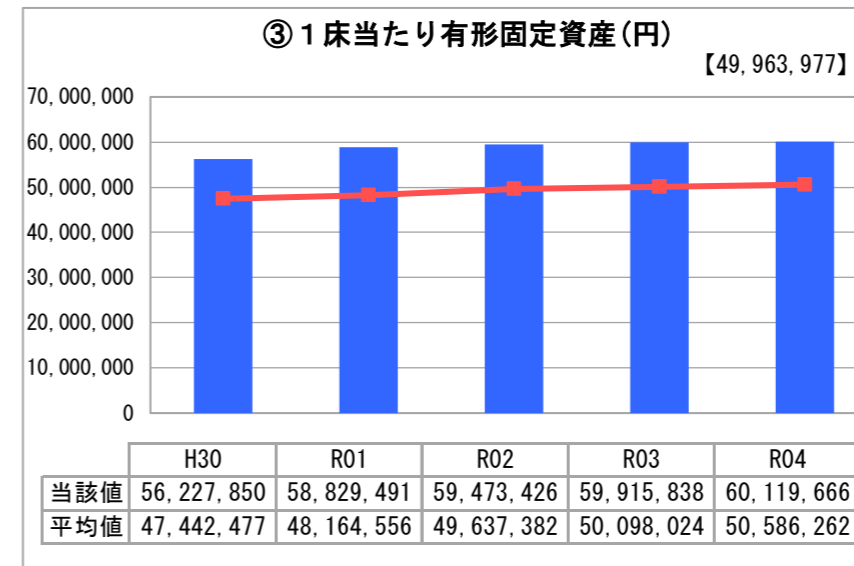
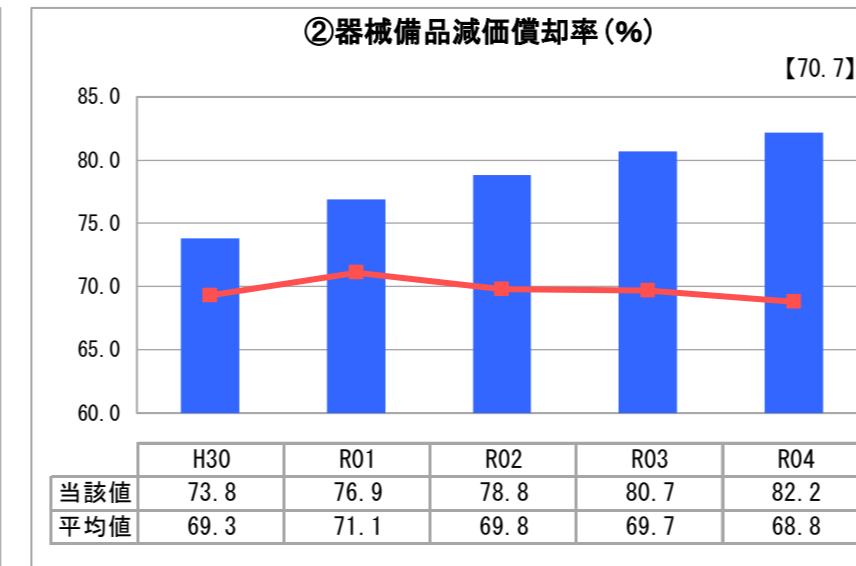
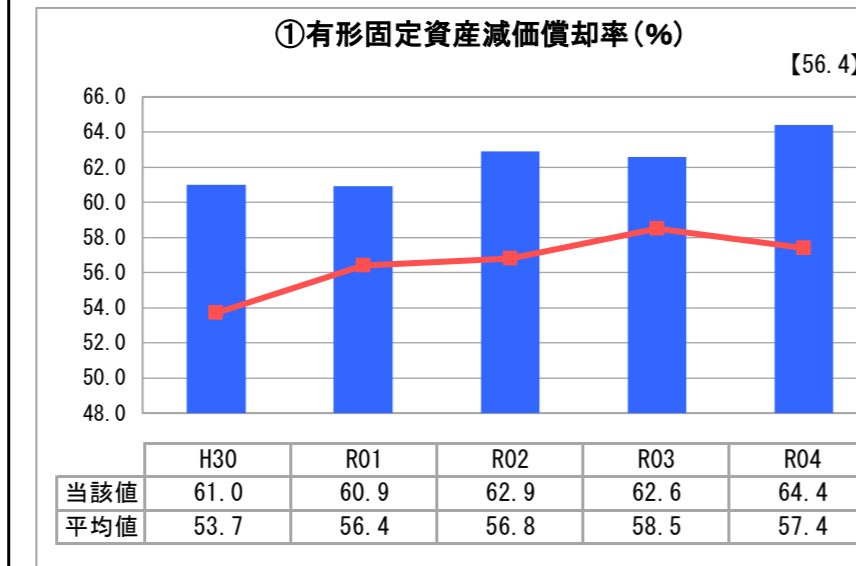
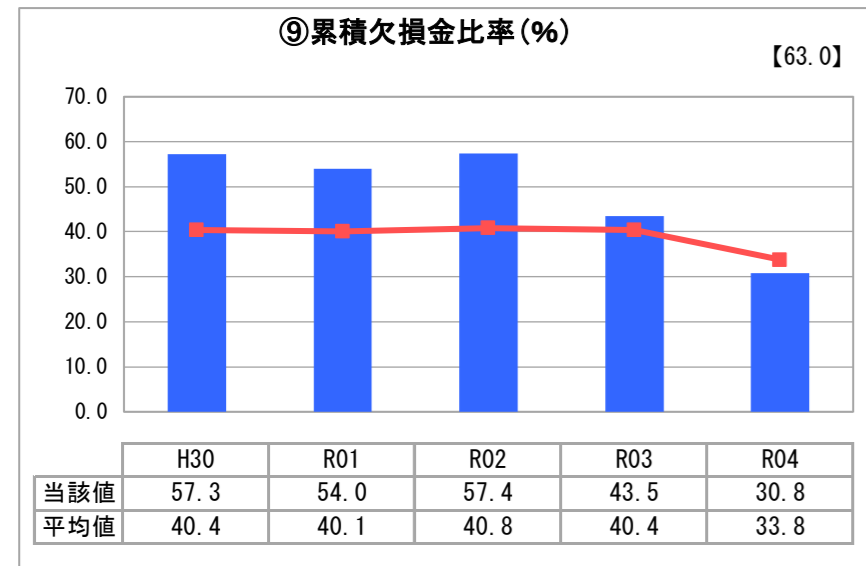
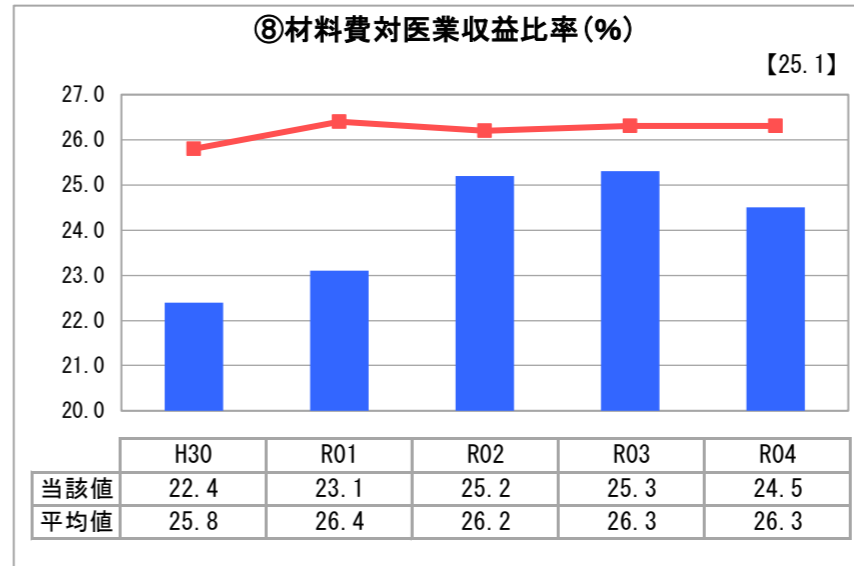
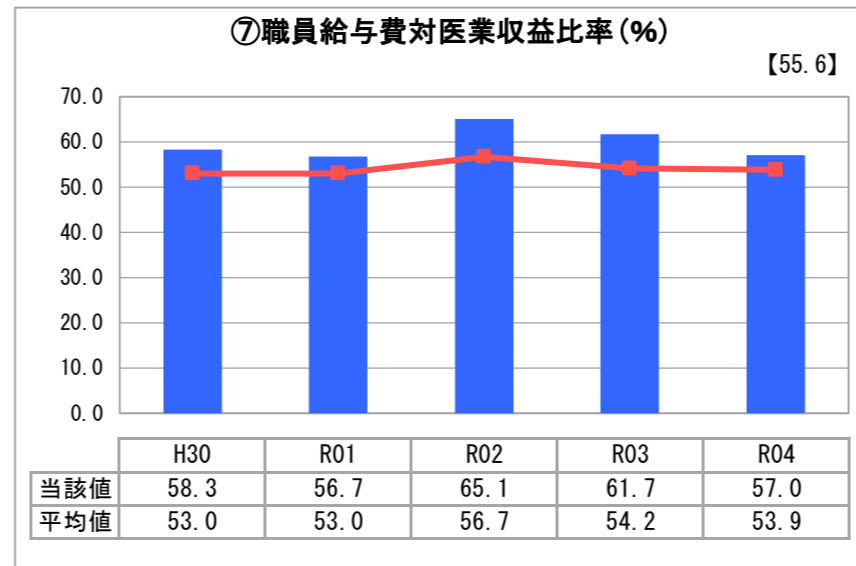
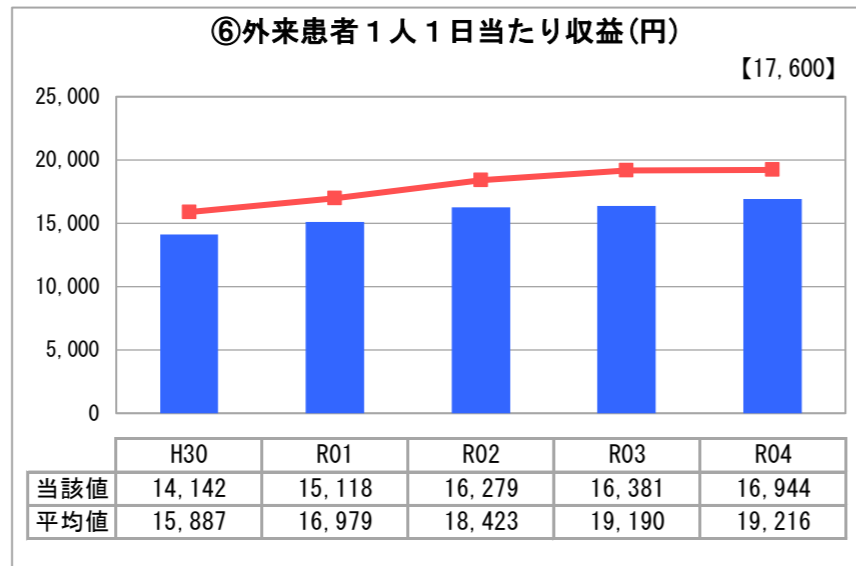
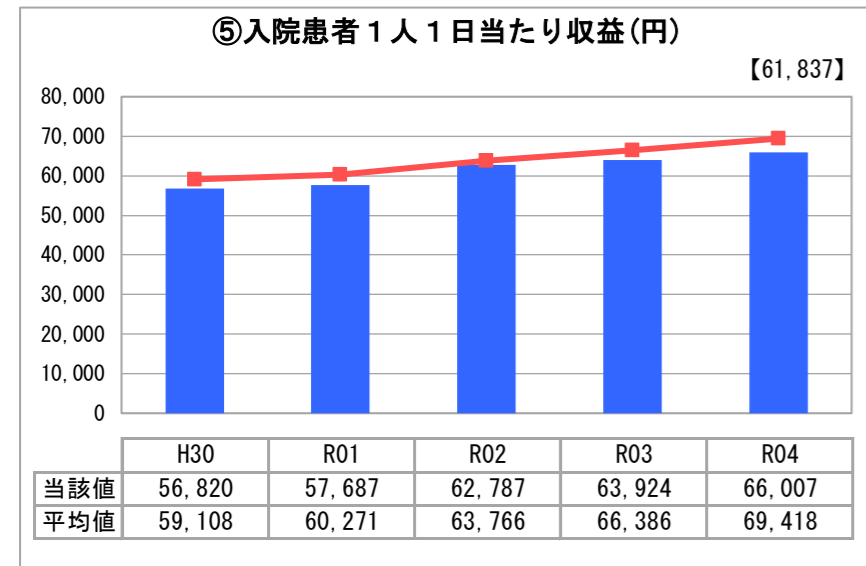
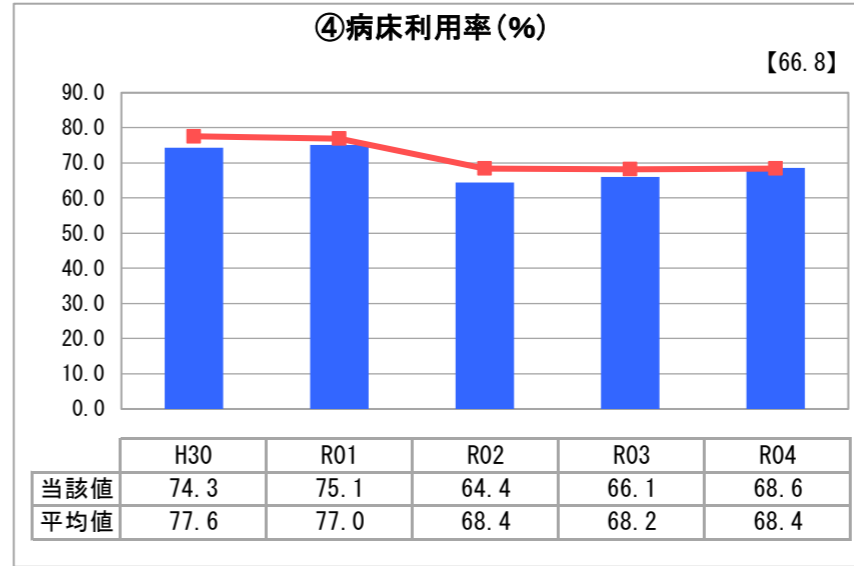
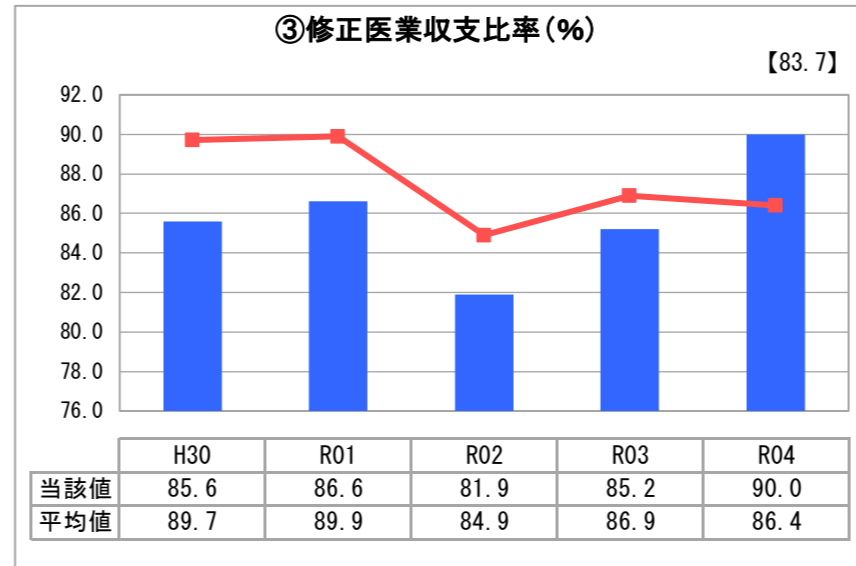
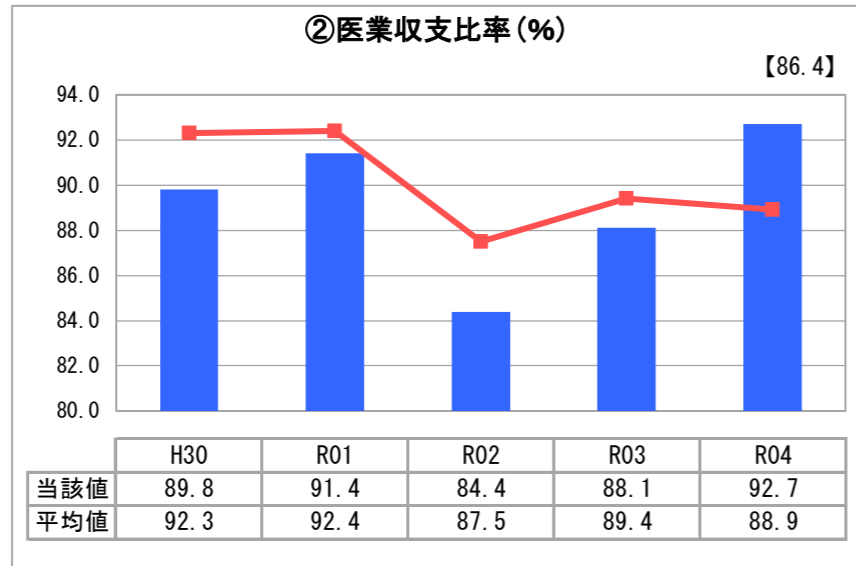
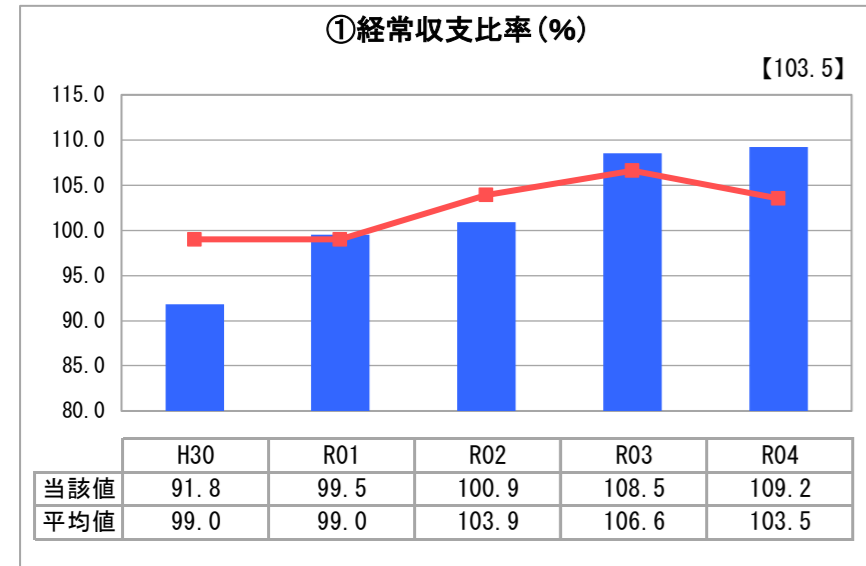
※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
401	-	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	-	401
最大使用病床（一般）	最大使用病床（療養）	最大使用病床（一般+療養）
401	-	401

グラフ凡例	
■	当該病院値（当該値）
—	類似病院平均値（平均値）
【	令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況

公立病院改革に係る主な取組（直近の実施時期）

機能分化・連携強化 (従来の再編・ネットワーク化を含む)	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
-	-	-
年度	年度	年度

I 地域において担っている役割

急性期医療の役割を担う地域の急性期基幹病院として、がん治療、小児・周産期医療、救急医療等の高度で専門的な医療を提供するとともに、より重篤な患者への対応に注力できるよう、地域の医療連携のネットワークを強化しています。
また、新基準での災害拠点病院、DMAT指定病院となり災害医療体制の強化に努め、神奈川県がん診療指定病院に指定される等、病院機能の充実を続けています。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率は、前年度比0.7ポイント増の109.2%となっており、健全経営の水準とされる100%を上回りました。一方、医業活動における経営状況を示す医業収支比率は依然として100%を下回っていますが、前年比4.6ポイント増の92.7%となっており、改善の兆しが見えています。
また、病院施設の稼働状況を示す病床利用率は、前年度比2.5ポイント増の68.6%となっています。
なお、入院外来収益単価ともに上昇傾向にありますが、新型コロナウイルス感染症に係る診療報酬の特例の影響もあることから、今後の動向に注視する必要があります。
今後につきましては、ホスピタリティに向けた体制を整備しつつ、経営の健全化に向けた取組を進めます。

2. 老朽化の状況について

本院の現在の建物は、平成12年に西側が、平成15年に東側がそれぞれ完成し、現在まで時代の要請に応えるために診療機能の充実及び、建物の改修を行ってきました。
平成31年度からは、病院機能の充実を図ることを目的とした別棟の建設工事及び本館の改修工事を順次実施しており、令和5年度中には全ての工事が終了する予定となっています。
なお、医療機器の更新については、耐用年数を過ぎた機器が多数あるものの、各機器の状況に応じて修繕及び更新を順次行っています。

全体総括

令和4年度も前年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響を受けたものの、医療現場は徐々にホスピタリティに向けて動き出しています。
前述のとおり、医業収支比率は依然として100%を下回るものの、改善の兆しを見せ、コロナ補助金に大きく依存した状況から脱却しつつあります。
このことは、平成28年度以降、大幅な赤字決算が続いたことを受け、令和元年9月に策定した「茅ヶ崎市立病院リバイバル・ロードマップ」に基づく、経営の健全化に向けた取組の結果であると考えます。
今後も、医療を安定的かつ継続的に提供することができるよう、経営の健全化に向けた取組を進めていきます。

※「類似病院平均値(平均値)」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。